

# いぶき

令和5年3月23日発行

第34号

二本松市農業委員会

☎0243-55-5148(直通)



▲第12回全国和牛能力共進会福島県代表と関係者の皆さん

今回、二本松市茂原の齋藤正剛さんが、第2区(若雌の1)に「やどのこと703」で出場。また、二本松市岳東町の上野広行



▲会場での審査の様子

全国の優秀な和牛を一堂に集め改良の成果などを競うこの大会は、5年に一度開催されることから、「和牛のオリンピック」とも呼ばれています。全国から440頭の出品がありました。福島県からは、種牛・肉牛の部合わせて18頭が出場しました。

次は日本一へ!  
第12回全国和牛能力共進会  
鹿児島大会

(令和4年10月6日~10日)

さんが、第6区・第7区(肉牛の部)に福島県代表として出場しました。

▼齋藤正剛さんたちと「やどのこと703」号



齋藤正剛さんは現在JAFふくしま未来和牛繁殖部会連絡協議会会長であり、今回の全国和牛能力共進会の団長も務められました。  
現在55頭を飼育しています  
が、大会に出場した感想を聞いてみました。(インタビュー記事は次ページ)



▲上野広行さんと「富士照平安」号





# 先輩の思いを次世代へ

二本松市茂原

齋藤 正剛（せいこう）さん



全国和牛能力共進会への出場は長年の夢であり、出場することでJAふくしま未来が、和牛の産地として更に名をはせることができると考えます。  
先輩から受け継いだ教えや思いを、次の世代へつなげるきっかけが出来る大変うれしく思います。

本番に向け、午前5時にJA職員2名と共に2時間の引き運動と調教を欠かさずに行い、更に、1日2時間のつなぎ運動を行いました。また、岩代支部の役員・部会員の皆さんによる手入れを、約1か月にわたり、ご協力いただき仕上げることが出来ました。  
今回の結果は1等賞でしたが、将来のある若手生産者にも「全共を目指したい」と思っ頂ければ幸いです。



正剛さんの息子さんである正堯（まさあき）さんも昨年より実家で和牛の飼育に従事しています。実際に畜産業に関わってみた感想等をお聞きました。

二本松市茂原

齋藤 正堯（まさあき）さん

昨年の10月に実家に就農しました。両親と共に繁殖和牛を飼養しています。

前職とは全く違う分野の仕事に



# 5年後の全国和牛能力共進会を目指して

奮戦しながら、ひたすら勉強の日です。

両親から給餌や交配する種雄牛の種類、一日の仕事の流れなどを教わっています。朝早い作業や力仕事が多く大変ですが早く自分一人で作業をこなせるように頑張りたいと思います。

5年後の全国和牛能力共進会には、自分の育てた牛を出品することを目標にしています。

現在、飼料・肥料等の高騰などで経営環境は厳しくなってきましたが、地域の和牛農家のリーダーとして、また、福島県の畜産振興に、今後益々のご活躍を期待しています。

（大内和長委員）





# ～令和4年度 県下農業委員会大会～

令和4年11月10日(木)  
福島市・パルセイイざか

全県から約500人の農業委員・農地利用最適化推進委員の参加のもと、県下農業委員会大会が開催されました。二本松市農業委員会からは、19名が参加いたしました。

冒頭、福島県農業会議の鈴木理会長挨拶があり、次に、それぞれの功績のあった団体・個人の表彰について奥平貢市副会長より報告がありました。続いて、来賓の井出孝利福島県副知事より祝辞を頂き、その後「新



▲表彰報告を行う奥平副会長



▲新型コロナ対策をして参加

しい農業・農村振興の形と農業委員会に期待すること」と題し、弘前大学教授の平井太郎先生より講演がありました。

地域の農業と農村を維持させるためにはそれぞれの地域が目指す姿を、年代・職業・職域等を超えて話し合うことが大事で、農業委員会には、現場の夢を引き出し、形にする伴奏支援が求められていると、それぞれの事例を交えながら説明をされました。

最後に、農業委員・最適化推進委員一人一人が、真摯に現場活動に取り組み、与えられた役

割と期待に応え、農業・農村の振興を図るため、活動記録の徹底、話し合いによる農地利用の最適化の推進・情報提供活動の

## 三保市長へ意見書提出

強化を申し合わせとして決議し閉会となりました。  
(大内和長委員)

11月1日に奥平貢市会長、野地太郎会長職務代理者、武藤一夫幹事長の3名が、農地利用の最適化の推進について三保恵一市長に意見書を提出しました。

### 意見書の内容(一部抜粋)

1 担い手への農地集約  
「地域計画」策定に向けた取り組みを早急かつ積極的に行うこと。

2 担い手農家支援  
農業経営の安定対策に関する事業予算の増額と補助率をアップすること。

3 遊休農地対策及び農業施設整備等補助について  
中山間地域等直接支払交付金・多面的機能支払交付金等の事業を継続すること。

4 農業後継者・新規就農者・定年帰農者支援

就農者への支援体制を整え、総合的な支援を進めること。  
5 農業振興全般  
各地域からの意見聴取を行うこと。

6 農業委員会の機能強化  
農業委員会委員全員へタブレット端末を導入すること。



▲左から武藤幹事長、奥平会長、三保市長、野地職務代理



# 会 視 察 研 修

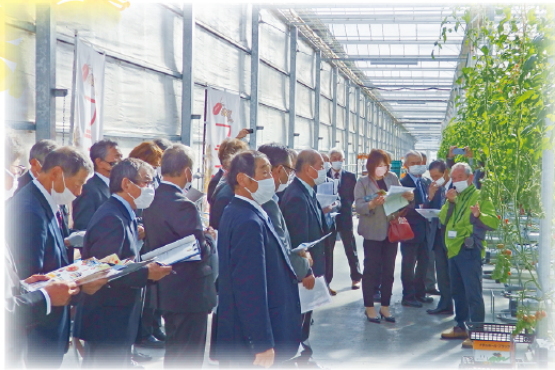
## 複合型農業テーマパーク 『ワンダーファーム』



令和4年度農業委員会視察研修は総勢30名で11月16日に実施しました。

まず初めに、常磐自動車道いわき四倉ICから車で5分の所にある株式会社ワンダーファーム（6次産業化施設）を見学しました。

この施設は複合型農業テーマパークで、『五感を耕す。食と農の体験ファーム』をコンセプトとして農業や食の体験と、農業の大切さや作物のおいしさを通



▲施設内での研修の様子

じてお客様に新たな価値を提供する施設となっています。太平洋に面したいわき地方は年間を通じて日照時間が長く、寒暖差が少ないのでトマト栽培が盛んな地域です。

施設内を案内して下さったのはコンシェルジュの草野秀雄さんです。

施設内には特殊フィルムを利用した太陽光利用型温室が2棟（栽培面積合計で1.7ha）ありトマトを栽培しています。



▲施設で栽培されているトマト

温室内は年間を通して30度に設定され、養液栽培で室内を黒丸蜜蜂（在来種）が飛んでいました。

光環境や気温、湿度、炭酸ガス濃度や養液の量などすべての生育環境をモニタリングし、コンピュータ管理で最良な状態に維持し環境・衛生管理がされた温室トマトを周年で栽培しています。

トマトの生産量は年間約1、500t、9品種を栽培しているそうです。

私たちが見学したときは、今年の8月に移植したフルテカ、フラガール、アルルの3種類のトマトが真っ赤に実っていました。来年の8月まで収穫し、茎も15メートル位まで伸びるそうです。

施設内には森のマルシェ（直売所・カフェ）、森のあぐり工房（加工工場）、森のキッチン（レストラン）、広場（BQ・イベント等）、

ガーデン（体験農園・イベント）があり、森のマルシェでは6次加工品が沢山販売されています。中でも「とまと味噌」の評判が良く、つい私も買ってしまったです。

ワンダーファームの敷地にはまだまだ余裕があり、将来的には宿泊施設や温浴施設も備えたい本格的な滞在型リゾートに進化させることが目標だそうです。

宿泊施設が出来たら、家族や友人とまた行ってみたいと思います。

（菊地清吉委員）



▲トマトを生かした加工品がずらりと並びます



▲トマト栽培施設の外観



# 農業委員会

## 広野町バナナ園視察して

### フルーツ王国ふくしまで南国のフルーツ バナナの栽培(熱帯性植物)挑戦



2018年9月新規事業として、震災以降休止中だった二ツ沼総合公園内フラワーセンターの800平方メートルの園芸用ハウスを利用して150株苗を植えました。

ビニールハウスとは言え南国のバナナを栽培することは困難でしたが、田中節三氏が開発した、バナナの苗に氷河期を疑似体験させる「凍結解凍覚醒法」という特殊な技術により広野町でもバナナの栽培が可能となりました。今では年間1万本を収穫できるようになりました。



▲バナナ栽培に至った経緯等について詳しく伺いました



▲新たに栽培を始めたパパイア

▼ハウス内で栽培中のバナナ



パパイア、コーヒーの栽培も始め、今年の6月にはコーヒーの収穫が予定されています。また加工品の開発にも取り組んでおり、バナナ和紙作り(広野小学校卒業証書台紙)、バナナスイーツ(ふたば未来学園とのコラボ)、バナナ酵母菌の新株発見(福島高専との共同研究)、バナナプリンの製造等も行っています。



冬季間の燃料費や安定的な収穫量、事業収入の確保など課題はありますが、町のイメージアップ、地元小中高生の参画、施設見学交流など積極的な取り組みが印象的でした。  
秋季での視察だったため、バナナの試食が出来なかったのが残念でした。  
(遠藤康子委員)

## ふくしま農業人フェア

令和4年11月13日に福島市・アクティおろしまちにてふくしま農業人フェアが開催されました。

この催しは福島県内での就農を希望される人を対象に各市町村がブースを作製し、実際の就農に関する疑問や就農にあたっての相談などに応じるものです。

二本松市のブースには、農業委員の武藤一夫さんが出席し、二本松市での就農を希望される皆さんの相談に親身になって対応していました。



▲来場者から相談を受ける武藤委員(写真左)



## 認定農業者と農業委員会委員の意見交換会(講演会)

2月20日に安達文化ホールで認定農業者と農業委員会委員の意見交換会が開催されました。今年度は新型コロナウイルスの影響もあり、講演会形式での実施となり、株式会社清峰園の山崎友子さんと福島大学行政政策学類の岩崎由美子教授の両方にご講演いただきました。



▲主催者挨拶を行う奥平貢市会長

山崎さんには「仲間とともにひらく私」と題して道の駅「さくらの郷」の成り立ちや震災後の復興、農家民宿「清峰園」の立ち上げなどご自身の経験を通じた地域の活性化につながるお話をいただきました。



▲山崎友子さん

岩崎教授には「農村の大いなる未来像を」と題して日本の農業を取り巻く現状や、農業関係の法令の変移、これからの地域農業を発展させるためには地域・集落での話し合いや交流がますます重要になってくることなど様々な地域での実例も踏まえ、農村を維持・発展させる為の考え方の参考となる内容でご

講演いただきました。それぞれの講演で多くの質問が飛び交い、充実した講演会となりました。



▲岩崎由美子教授

### 委員研修会活動

・地域計画策定に係る農業委員会での役割

1月20日の農業委員会総会開催にあわせ、福島県農業会議の職員を講師に地域計画策定に関する研修会を実施しました。

令和5年度より人・農地プランに代わり実施される地域計画の策定にあたり、農業委員会委員に求められる役割・今後必要になってくる事務等について学びました。

### ・タブレット端末の操作研修

同じく1月20日にタブレット端末の操作に関する研修会を行いました。

今年度より導入されたタブレットの基本操作・専用アプリの利用方法について学びました。



▲地域計画の内容について委員全員で研修を受けました



▲実際のタブレットを用いて使用方法を練習しました









## 農業委員会からのお知らせ

農地を売りたい、貸したい  
(農業経営規模縮小)方は  
農業委員会事務局まで  
ご相談ください。

### お問い合わせ先

農業委員会事務局(市役所2階)

☎ 55-5148

FAX 22-8533

### 現在あっせんを依頼されている農地

#### ◇売りたい

所在地	地目等	面積(アール)
茶園二丁目	畑1筆	2
舘野四丁目	田10筆 畑2筆	84 10
舘野原	畑1筆	2

## 農地の売買や転用許可申請手続きはお済みですか？

農地を農地以外のものにする場合や、権利の移動には農業委員会の許可が必要になります。事前に農業委員会事務局にご相談ください。

## 転用完了後や非農地証明による地目変更登記はお済みですか？

転用許可を受け農地を農地以外のものにした場合は、速やかに地目変更登記を行ってください。手続きが行われていないため、後々農業委員会事務局に相談に訪れるケースが増えています。

## 全国各地の今話題が満載

全国農業新聞を購読してみませんか？

農業に関する情報や地域の話や経営と暮らしに役立つ情報をお伝えします。

○発行：毎週金曜日(月4回発行)

○購読料：月額700円(送料込み)



※購読申込みは農業委員、農地利用最適化推進委員  
または農業委員会事務局

## 農業委員会への届出は お済みですか？

- 相続(遺産分割・包括遺贈を含む)
- 法人の合併
- 時効取得等

により農地の権利を取得した場合は、相続等の届出をしてください。



### 広報委員会

委員長

松本 太

副委員長

佐藤 孝

委員

大内 和長

武藤 栄利

菊地 清吉

安齋 浩一

石川 重彦

佐藤 洋三

遠藤 康子

オフザーバー

会長

奥平 貢市

会長職務代理者

野地 太郎

## 編集後記

今年の福島県の桜の開花予報は例年より12日、昨年より9日早く予想されています。(3月6日時点)

もうすぐ4月になり、いよいよ二本松にも温かい春が来てお花見の季節になります。今年の霞ヶ城公園観桜会は4月8日土曜日に予定され、これから春の温かい日差しになりウキウキ気分であれこれ成るのですが、この時期は卒業や転勤、異動、引っ越しなど人生の新たなステージに入る方もいらっしゃるのではないのでしょうか？ 出会いと別れを繰り返す事で、新しい人間関係や環境が変わり、様々な出会いがある事と思います。私の身体は名前に負けず、太り気味なので春のぽかぽか陽気になったら、ダイエツトがてらウォーキングを始めようと思っ

松本 太